

2009 年度メディア学部プロジェクト研究一覧

以下のプロジェクトの履修を希望する学生は、履修申請時、メディア学部事務室で、登録申し込み用紙に記入し登録をしてください。なお、前期（通年授業）は1回目の授業から出席してください。

<東金キャンパス開講プロジェクト>

■ 山武郡市文化記録プロジェクト（担当：江口）

<通年1コマ、（前期：水3／後期：月2）、2～4年生、20名程度、4単位>

東金市・山武市・大網白里町・九十九里町・芝山町・横芝光町で構成される山武郡市教育委員会視聴覚教材センターと共同プロジェクトを編成し、この地域に伝わる民話、伝統文化、出身著名人物の功績などをデジタル映像化し、学校教育用の教材としてアーカイブス化を推進する。

学生はその作業を通じて、地域社会への認識を深め、地域の良さを再発見すると共に、大学で学びつつある知識と技術を実践の場で体験することが出来る。

メディア学部の方針のひとつ地域との連携を図りながら、映像制作の企画・制作の実践の場として活動していくものである。制作された作品については、山武郡市教育委員会視聴覚教材センターにファイルされ、広く教育現場で活用されるほか、千葉県メディアコンクールなど各種コンクールへの出品を目標としてより良き作品制作を目指していく。

消え去ろうとしている「今」を記録し、地域の活性化に繋げるPRとしての役割もこの共同プロジェクトを通じて果たしていければと考えている。

すでに昨年度、プロジェクト研究Ⅲの第二課題として取り組み、第一作「伊能忠敬の地図作り」（8分）を制作、千葉県メディアコンクールで<優良賞>を受賞した。第二作「里の秋」（10分）も完成、来年度のコンクールへの出品が決まっている。

プロジェクト研究Ⅲの活動の第一課題は、映像技術の教材づくりであるが、昨年度は共同プロジェクト活動の作業量が多く、教材制作に多大な支障を来し、年度末に数十時間の余暇を使わせることとなった。これらの状況に鑑み、プロジェクト研究Ⅲと並行して<山武郡市文化記録プロジェクト>を立ち上げ、映像コアの授業を履修する2年生、3年生、昨年経験した4年生を含めた科目として展開を図りたい。地域への貢献、社会性を伴う実践教育の現場として極めて有効なものと考えている。

■ 地域貢献プロジェクト（担当：平野）

<通年1コマ、2・3年生、10名程度、2単位>

城西国際大学メディア学部の学生は、4年間で自らの大学が所在する千葉県東金市で多くの時間を過ごすこととなります。大学キャンパスや授業のこと、通学の経路についてはかなりよく解るようになるでしょう。しかし大学が立地している東金市や房総地方についてはどうでしょう。地域の自然、歴史、生活、風俗、産物、産業、文化についてまず〈知る〉ということをやってみませんか。地域を〈調査〉して、地域の人々や事物に〈学び〉、地域に〈提案〉することが出来るかも知れません。教室で学ぶ映像やデザインの能力を駆使して、地域に〈貢献〉することも可能であると思います。そしてこれらの行為の総体が4年間の大学生活をより豊かなものにしてくれるはずです。

学習、研究の性質上、単年度ではなく、2～3年継続することを考えている。

- 東金市、成東町、九十九里町のグラフィック絵地図を制作する。
- 東金市、成東町、九十九里町の観光地図を制作する。
- 東金市、成東町、九十九里町のデジタルマップを制作する。

■ 横浜美術館プロジェクト（担当：後岡・戸田・小波津）

＜通年1コマ（前期：金1／後期：火2）、2～4年生、20名程度、4単位＞

横浜市みなとみらい地区に立地する横浜美術館と連携し、美術館で開催される展覧会の告知映像やWebページなどを制作するプロジェクトです。公共の美術館のWebページや広告用の映像を制作し、作品を発表できるということは、たいへん貴重な体験です。さらに、その質にも高いクオリティを求められることから、技術の向上とともに経験を積み、作品作りに対する意識を高め、質の高い作品をコンスタントに作り続けていける能力を養成します。

横浜美術館に行き、実際に美術に触れそこから感じたものを人にいかに伝えるかを考えます。その横浜美術館という存在を常に意識しながら、それぞれで年4回行われる企画展の告知映像とWebページや年3回行われるコレクション展のWebページを制作します。それぞれコンペ形式で選ばれた作品が実際の美術館内外で上映され、美術館のホームページ上にて掲載されます。なお横浜美術館への交通費は支給されます。映像、デザイン、Web、サウンドの各分野で自分の力を伸ばしたい人を募集します。

★ **事前説明会：4月3日（金）13：30～** メディアラボ2（H棟3階）興味のある人はぜひ参加してください。その他、随時、メディアセンター2にて対応します。（戸田・小波津）

■ 景観プロジェクト -自転車散歩-（担当：川口）

＜前期集中（8月下旬3日間集中講義）、定員：15名、2単位＞

景観は日常的に私たちが目にしているものだが、よく意味を考えてみるといろいろな判断基準があり定義し難い。ある機関の定義を借りれば、景観とは「人間を取り巻く地域の自然、歴史、生活、産業、文化などのありさまを背景とした、様々な人間活動等の結果としてつくられる環境の総体の姿」であり、その捉え方は「長い時間の中で、我々の生活（営み）を通して育まれる、身の回りの環境の姿であり、地域の歴史や文化の現れ」であるとしている。

この考え方でわれわれが暮らす地域の景観を考えてみると、その地域の構成員の地域に対する心の持ちよう、行動のありかたの結果として景観は現れてくることになる。良好な景観は、地域の自然や町並みやなどの美しさはもとより、人々の関わり方の快適さ、充足感、安全性などの総体をいうのであり、それを産み出すには自分の住む地域構成員一人ひとりの関わり方のレベルによる。

翻って、我がメディア学部の学生有志も、平野教授のもとで、3年間にわたり、限定的ではあるが東金駅周辺の街並み改善・開発計画をテーマに研究活動をし、大学祭学内学生研究発表コンクールで、優秀賞、或いは最優秀賞を獲得するなど、その活動は東金市に少なからぬ影響を与えている。私も、微力ながら研究に関わらせてもらったが、学生諸君は、自分達は東金の「下宿人」=異邦人ではなく、自分の「家」=地元人の気持ちで研究を進めていたと思われる。この「家」とう考え方こそ景観を形作る単位なのである。自分の家を大切にしない人間などいない。

そこで、この授業方針を、「地域の構成員一人ひとりの関わり方のレベル」という考え方に焦点をおき、縁あって東金市に関わりを持つ我々で、「東金の景観探し」から始め、やがては東金市と周辺の「景観マップ」の作成に漕ぎつけることが理想だ。もっとも、粘り強く、パワフルな人材が集まればの話だが。

今回の授業のキーワードは「散歩」である。歩き方にもよるが、散歩すると、普段、気にも留めないもの、よく見ると凄いもの、どう考えても変なもの、奇妙なもの、物凄く美しいもの、醜いもの、汚いもの、美味しいものなどいろいろなものが見えるようになってくる。ただ、今回の散歩は、たったの2日間で、東金市内を回ろうと欲張っているのも、全員自転車による「自転車散歩」である。データ収集はカメラ類を駆使しておこない、最終日は収集情報の整理と今後研究方針の検討会を行う。

・集中講義日程

第1日目：図書館で景観について短時間講義と散歩範囲確認。散歩に出かける。17時帰校。

第2日目：終日市内調査、情報収集。17時帰校。解散

第3日目：図書館で収集資料の分析、整理、今後の研究方針を決定。

・参考書、文献など

◎ 水田記念図書館に以下の参考図書をそれぞれ5冊ずつ用意しておくので興味のある人は読んでみたまえ。

○ 「美しい都市、醜い都市」中央公論新社・・・これは面白い本だよ、読んでほしいなー。

○ 「東京下町散歩」新宿書房・・・マップ作りの極意あり。一種のマンガ。気楽に読める。

○ 「路上観察学入門」筑摩書房・・・、これも滅茶苦茶面白いよ。笑いが止まらない。

○ 「いきづく町をつくる 美の条令 真鶴町・万人の選択」学芸出版・・・これは読み応えがある優れた本。

・注意事項： 残暑厳しいとき。麦わら帽子や、水、など暑気対策を十分に立てること。弁当、手ぬぐい、雨具など。なお、散歩中、一日2回、ラムネを提供する。川口のオゴリだよ。

■ 実践 3D CG 作成講座（担当：後岡）

＜後期 2 コマ、3 年生、50 名、2 単位＞

＜プロジェクトの目的＞

- ・デジタルデザインⅡが開講されないため 3D CG の学習ができない 3 年生のための講座である。

＜対象＞

デザイン系授業希望者で、3D CG に強い興味と関心がある 3 年生対象

＜プロジェクトの内容＞

教科書に沿った実習を中心に「3次元コンピュータ・グラフィックス」を本格的な 3D アプリケーションを使って基礎からモデリング、レンダリング、アニメーションまでを学習する。この授業では『メタセコイア』無償版を使って 3D コンピュータグラフィックスの重要な概念を、かわいいキャラクターを作りながら楽しく身につけていく。CG 検定 3 級、2 級の受験にも役立ちます。美しい本格的な 3 次元コンピュータグラフィックスの作成と、コンピュータグラフィックス一般の必須知識の習得を目的とし授業を進めます。

＜開講時期＞

- ・後期に 2 単位週 2 回実習授業として開講予定
- ・受講希望者が少ない場合は、2 年生対象のデジタルデザイン 1 の授業に吸収する。

■ Podcast 番組制作プロジェクト（担当：戸田・小波津）

＜後期集中、2～4 年生、2 単位＞

本プロジェクトでは、ポッドキャストの番組制作をおこないます。ポッドキャストとは、Web 上で配信するラジオ番組です。

「テーマ」

自分の身近な“モノ”をテーマにした番組を制作します。その“モノ”の魅力を視覚情報を使わずに人に伝える方法を模索します。ふだん使い練れたコップやペンや鞆のような“モノ”から、ぬいぐるみやアクセサリや本のプレゼントされた“モノ”まで、さまざまな“モノの目には見えない価値（魅力）”を言葉や音によって伝えてもらいます。同じモノでも、人がプラスされる事によって、さまざまな意味を持ってきます。その目には見えない価値（魅力）を声や音によって表現する事で、新たな“モノの魅力”を再発見する事ができる番組をめざします。この制作を通して、一人一人が自分の好きな“モノの魅力”を発信していくための、サウンドの基礎知識や技術を身につける事ができます。

<東京開講プロジェクト>

■ 博物館・美術館プロジェクト -街にでてあちこちみよう- (担当: 川口)

<後期集中、2単位>

最初に、ちょっとだけ博物館と美術館の話をしたい。

博物館や美術館の役割は、われわれが観に行けないところ、めったに見られない珍しいものを、それぞれの専門家が、きちんと体系化してその中を歩けば、ひとつの世界、ひとつの文化の輪郭に触れることができるような仕組みを作ってくれることにある。

ところで、日本の美術館と博物館は、ミュージアムという同じ翻訳語でありながら、美術は美術館、歴史、考古、民族、自然領域は博物館と運営形態が違う。しかし、もともとこのふたつは二つでひとつなのだ。諸君もよく知る大英博物館やルーブル、プラド美術館などは博物館と美術館は一緒である。中身も凄いものばかりだ。勿論日本のそれも同じだ。

そこに行けば、本物に出会える。人でも物でも本物は人の心を揺り動かす凄い力をもっている。今回はそのような力を持つものを見つけたいと思う。

今でも日本の文化活動の中核を担う日本の美術館や博物館だが、グローバル化による世界大交流時代や強力な IT 化などによりその在り方が転換点に差しかかっている。

必ず本物に出会える定住型のミュージアムから、彫刻は街なかへ飛び出し、本来なら、美術館のコレクションに納まるデザイン製品やハーマンミラーの椅子も気軽に購え、喫茶店で使われ、昆虫や植物や爬虫類、岩石、民族衣装などあらゆるものを手に取ることができるなど、街そのものが覆いなしの美術館や博物館と化してきた。これは、ミュージアムがもはや、社会と有機的に結びつく融合型でなければ成り立たないことを意味する。1980年代に、フランスで始まった自分達の住む地域そのものがミュージアムであるとする「エコ・ミュージアム」構想は、その時点で「今」を予測していた。エコは勿論エコロジーを意味する。

それでも、ミュージアムは素晴らしいし、今後も社会で強力にその力を発揮していこう。

本講座では、以上の流れを踏まえいろいろな視点でミュージアムの在り方を考えてみようと思う。まず、ここだけは見逃せない東京国立博物館を出発点として、各地のミュージアムや街中を探訪しながら、変貌する「街の今」を見てみよう。

繰り返しになるが、ミュージアムの中身は過去から現在に至る選りすぐりの「本物」が集まっている。街中もまた目を凝らすと現代の「本物」が沢山ある。「本物」は「生」＝なま、とも言い、人を吸引する「力」＝磁場がある。また、「鮮度」も良い。そして「本物」は現場に行かなければ出会えない。

・参加の心構え

●準備はいらない。デジカメ、携帯カメラ、筆記用具、メモだけでよい。ただ、常に指定された日時にピッタリ現場正門または表玄関前にいること。

●すべて生＝ナマを体験する。生は音楽のライブと同じ。良いライブは本物。

●今の世はバーチャルが殆んど。現地、現場に足を運んで、お金を払うなどエネルギーをかけなければ本物には出会えない。本物は回数を重ねないとなかなか現れてくれない。

これをきっかけにして、街中を探訪する回数を増やして欲しい。

・予定訪問現場リスト

実施日は2月下旬の水曜から土曜日までの4日間。

第1日目：午前9時30分東京上野公園口「東京国立博物館」正門前集合。

ここだけは必見。凄い本物＝生が集まっている。国宝が続々と現れる。

以下の場所の中から、いくつか選ぶ。

東京都写真美術館、日本民芸館、国立近代美術館、家具の博物館、自転車文化センター、ボタンの博物館、三鷹ジブリ美術館、大宮交通博物館、セキグチ・ドールハウス、日本玩具博物館、文具資料館、東京都現代美術館、東京江戸博物館、東京駅周辺、主に丸の内界隈の道と造形物、彫刻群、街路灯、築地界隈、築地本願寺、東京鮮魚市場、浅草界隈、六本木界隈、原宿界隈。渋谷文化村、日比谷パティオなど。

最終日、午後4時に麴町キャンパスに戻り、纏めの授業、後、アンケート記入、講義終了、記念撮影、午後5時解散。

注：ある程度の経費（交通費、入場料等）がかかることは覚悟して欲しい。しかし、お金には代えられない成果が得られることは間違いない。

そこで、提案だが、麴町キャンパス第二会館は、一泊3500円の学生料金なので、2泊しても4日間の東金往復交通費より安くなり、快適な施設のうえ、早朝、夜間行動が可能に、そしてなにより体が楽だ。夜間開館の美術館（サントリー美術館、六本木モリ美術館等）もあり、夜間の街のリサーチにはもってこいだ。

受講者は検討して欲しい。

<幕張キャンパス開講プロジェクト>

■ メディアプロダクション（幕張）（担当：成瀬・寺本）

<通年1コマ（前後：火4）、1～4年生、4単位>

【教育目標】

メディアプロダクションは、分野という枠にとらわれずにコンテンツを企画・制作・配信するという、IT映像コースの象徴的な授業である。また、幕張で開講される基礎ゼミ1・2、情報メディアリテラシー1・2などの授業とも機動的に連携して実施される。受講者は全てのプロセスに主体的に関わることで、コンテンツの生成と流通の仕組みを理解し、自らが企画できる能力を身に付ける事を目標とする。なお、本授業のために設置するWebは、幕張メディアスタジオ発のベンチャークラスター(メディア関連企業の集積)の核となることも目標としている。

【内容】

幕張メディアプロダクションの活動は、授業計画に記載されている「1. 幕張コンテンツ制作プロジェクト」と、「2. 大学外部との協同プロジェクト」に大別される。履修者は、それぞれの活動に参加することが求められる。

授業の計画 全ての時間を演習形式とし、以下のパートに別れて作業を行う。

1. 幕張コンテンツ制作プロジェクト(全員必修)

具体的には、Webサイトを構築し、幕張、千葉県内、東京ベイエリアに関連する話題を発信する。生中継による番組方式と、Webマガジンによる記事形式での発信を予定している。番組方式は、通常のTVプログラムと同様に役割分担を行ない、番組として配信する。記事形式では、写真・文章による記事、映像、プログラミングなど、発表の形態は自由とする。学生は自ら企画者となり、企画書の提出から取材の実施、編集・作成と1人もしくは複数で実施することとする（関連ページを参考のこと）。

2. 外部との協同プロジェクトへの参加

東京俳優市場プロジェクト(Avexなどと協同)などの大学外部との協同プロジェクトや、マリーンズなどでの長期的・継続的なインターンなどを複数設置する。

履修者は、これらの中から選択して参加する。

試験及び成績評価

それぞれのプロジェクトはポイント制となり、活動内容やプロジェクトに応じて履修者にポイントが与えられる。履修者は授業終了時まで一定数のポイントを獲得することが、成績評価の条件・指標となる。具体的なポイント数等の規定は、授業当初に説明する。
※幕張キャンパスで展開されるプロジェクトや、地域企業での長期インターンシップ等に参加する意思のある学生は、必ずこの授業を履修すること。

※本授業は、メディアプロダクション(1年配当)と合同開講である。

■ 篠田正浩監督ドキュメンタリープロジェクト（担当：成瀬）

<集中>

映画監督篠田正浩（本学客員教授）についてのドキュメンタリー映画「河原者ノススメ」（監督／構成 成瀬活雄）の撮影、編集、仕上げが2009年度中に行われます。この映画「河原者ノススメ」は城西国際大学が制作協力にあたっている劇場用映画作品です。このプロジェクト研究では、映画「河原者ノススメ」制作における業務のアシスタントを務めながら、映画制作の現場における業務についての理解を深め、実践的に映画制作について学びます。

授業期間については、映画スケジュールが5月～9月に撮影、10月～12月に編集を予定していますので、その期間内のうち、数日間、アシスタントを務めることとなります。授業開始日、授業時限については掲示板で確認してください。